



書
評

内視鏡下鼻内副鼻腔手術 [DVD 付] 副鼻腔疾患から頭蓋底疾患まで

編：森山 寛，春名眞一，鴻 信義

A4・頁 336 2015 年 5 月 定価：本体 18,000 円＋税
[ISBN978-4-260-02094-7] 医学書院刊

＜書評者＞ 甲能直幸（杏林大学耳鼻咽喉科・頭頸科教授/佼成病院院長）

書籍本体と DVD（動画）により ESS の基本から応用までがよくわかる

このたび医学書院より、『内視鏡下鼻内副鼻腔手術—副鼻腔疾患から頭蓋底疾患まで』が刊行された。鼻の慈恵と言われた伝統を受け継ぐ，東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科森山教室の総力を挙げた鼻の内視鏡下手術の集大成である。鼻副鼻腔手術で鼻外手術から鼻内手術，そして内視鏡下の手術へと至る，歴史を踏まえた，内視鏡手術の全てがわかりやすく解説されている。

本手術の基本概念は，鼻腔の形態を是正し，副鼻腔の換気と排泄の改善を図り，副鼻腔の空洞性治癒と洞内粘膜の炎症の軽減を目指すことであると，総論で述べられている（本文 6 ページ）。この目的を達成するためには，(1) 副鼻腔の単洞化，(2) 洞内粘膜の保存，(3) 鼻腔形態の是正（鼻中隔彎曲の矯正を含む），(4) 中鼻甲介・上鼻甲介の保存，が必要となる。本書はこの基本的な考え方をもとに，低侵襲で精度および患者満足度の高い治療を求めて術式の改良が行われた結果の書である。

内視鏡下鼻内副鼻腔手術の普及には光学機器，手術関連機器，ナビゲーションシステムの発達が大きく貢献した。しかし一方で，器械が新しくなると，その使

い方，扱い方にもいわゆるコツが必要となる。コツを誤ると思わぬ障害を引き起こすことになる。手術手技の解説書において非常に重要な項目は副損傷に関する記述である。本書ではマイクロデブリッダーや鼻内用高回転バーなどの手術器具の正しい操作（してはならない操作，危険な操作），損傷時の対応が適切にまとめられており，大いに参考になると思われる。また，付録 DVD にまとめられている手術操作の動画も，器具の使い方や動かす方向など，文章では十分に表現しにくい詳細な部分の理解に役立つし，繰り返し見ることによってイメージトレーニングにも有用である（Good surgeons operate well. Great surgeons know how to manage their own complications/by Moshe Schein）。

そして，頭蓋底疾患に対する鼻腔経路のアプローチは，ナビゲーションシステムの発達や手術器具の進歩とともに普及した。本書では最先端の手法について紹介されているが，この分野はこれからさらに新しい技術革新が行われる可能性を秘めている。

慈恵医科大学耳鼻咽喉科の内視鏡下鼻内副鼻腔手術における第一線の先生方の英知の結集とも言える本書が，日常の医療において多くの医師に有効に利用されることを願っている。